

『VIEW next』高校版・2021年度「発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践」授業デザインシート

【教科・科目】	国語・現代文B
【分野・単元】	小説
【テーマ・作品】	夏目漱石『こころ』
【設定時数】	15時間
【単元の目標】	目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。

時数	学習内容	自校の生徒の特性を踏まえた各時間における教育目標 (身につけさせたい資質・能力)	左記の資質・能力の「学力の3要素」への分類	授業の大まかな流れ	授業における3つの視点の学びに対する指導内容・教師の配慮			育成を目指す資質・能力の評価方法
					主体的な学び	対話的な学び (教師による場づくりへの配慮)	深い学び (教師による思考の活性化・深化への配慮)	
1~3	教科書に掲載されている前段の文章を読み、登場人物の設定と関係性を読み取る。	文章を読み、構成や展開を的確に捉える。	知識、技能、判断力、主体性	教科書本文の前段から抜粋した文章を読み、「私」「K」「お嬢さん」の人物設定と関係性を把握する。	本単元の全体像を説明し、見通しを持たせたうえで、各活動の目的と意味を伝える。			ワークシート
4	着目した文や疑問点を整理する。	主体的・批判的に文章を読む。	技能、思考力、判断力、主体性	教科書本文を読み、「『私』の発言、または『私』について」「『K』の発言、または『K』について」「その他」の3項目について着目したことや疑問点を整理する。		解釈に正解はないことを伝える。		ワークシート
5	グループで探究するテーマを設定する。	協働して課題を設定する。	思考力、判断力、主体性、多様性、協働性	4人1組のグループを作り、前時で取り扱った疑問点をもとに探究テーマを設定する。		デザイン思考を取り入れ、アイデアの幅に制限を設けずに話し合いをするよう促す。		ワークシート
6~10	探究テーマについて情報を収集し、考察する。	目的に応じて情報を収集・整理して課題解決に向けて思考し、効果的に表現する。	知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性	発表資料のサンプルを配布して見通しを持たせた後、「設定理由」「調べなければいけないこと・整理しなければいけないこと」「調べたこと・整理したこと」「考察」の4項目について情報を収集して、協働しながら考察し、グループで1枚のプリントを作成する。	考察の方向性が見えてくるまでは極力声掛けをせず、必要に応じて情報収集のアドバイスを行う。	解釈には正解がない一方で、情報を収集することと妥当な根拠を求めることの意義を伝え、多角的な視点から考察するように促す。	考察の目的が立ったグループから順に声を掛け、疑問を投げ掛けて思考を揺さぶる。	活動の様子 発表資料
11.12	考察した内容をグループで発表する。	自分たちの考えを効果的に表現するとともに、対話的な学びによって思考を深める。	知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性	発表後に行われる教員からの質問に対して、グループで回答する。聞き手は他のグループの発表から新たな発見や刺激を受け、話し手は教員との質疑応答から思考を整理し、考察を深めるきっかけを得る。	発表から質疑応答までの流れを説明して見通しを持たせた上で、話し手と聞き手がどのような意識を持って活動に参加するか伝える。		質疑応答によって、新たな視点を持つきっかけを与える。	活動の様子 ワークシート レポート
13.14	教科横断型の学習を通して、語句に着目し、文脈を捉えなおしたうえで効果的に表現する。	語句に着目し、文脈を捉えなおした上で効果的に表現する。	知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性	『こころ』の英訳をきっかけにテキストを解釈しなおすとともに、日本語と英語の表現の違いを感じ、直訳にとどまることなく語句の意味を理解して効果的に表現する。イギリス人翻訳家と日本人翻訳家の相違点に着目することで、「語句はその特徴を知った上で、文脈に応じて用いる必要がある」「表現は解釈を伴う」ということを学ぶ。最終的に、「『私』が自殺した『K』を目撃した場面の『そうして私はがたがたふるえたのです』という文を表現するのに最も適当な語句は『shake』『tremble』『shudder』のいずれであるか」ということを考えるワークショップを通して、国語が言語活動の中核であることを実感する。	今回の学習が本授業に留まらず、今後の学習にも関連することを伝える。	個人で思考する時間を十分に取った上で、意見交換の活動を繋げる。	一斉授業によって知識を与え、個人で思考し、他者と意見交換した後に、再度個人の思考へと活動を戻すことによって、視野の広がりを実感させる。	活動の様子 ワークシート
15	これまでの授業を振り返り、「学ぶ」とは何かを考える。	ものの見方、感じ方、考え方を深め、人生を豊かにする態度を育てる。	思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性	冬季休業中に取り組んだレポートから任意の生徒の文章を選出し、それを本文として作成された問題を読み、解答する。「問いは与えられるものではなく、生み出すもの」という認識を起点として、これまでの授業を振り返り、どのような時に学びを実感したのか整理し、そこから「『学ぶ』とは何か」という学習の本質に迫る。国語という具体から、学習という抽象にシフトし、他教科を含めた今後の学習や日常生活について意識を向ける。	生徒が書いた文章を問題文にするなど、好奇心を刺激するような活動を取り入れ、生徒が「自分事」として学習を捉えられるようにする。	同じ経験でも人によって感じ方が異なることを実感するとともに、「学ぶ」ということに多様な捉え方があることに気づく。	自己の振り返りと他者との意見交換によって、これまで感覚的に捉えていた事柄を明確にし、自己の内にあった「学び」を再発見させる。	活動の様子 ワークシート